



今回訪問した事業所  
加藤総業株式会社

vol. 7

男女が共に活躍している  
元気な市内企業を紹介します



新エネルギー事業本部主任 梅津 訓子さん

加藤総業は、セメント・鉄鋼・ガラスなどの建設資材を販売しています。平成21年からは風力発電事業を開始し、県内6か所で16基の風車を運転しています。今年9月、まちづくりを支える企業としての功績などが評価され、山形県産業賞を受賞しました。

入社7年目の梅津さんは、同社初の女性総合職として、風力発電施設の管理などを担当しています。「風車の新設場所を探して山の中を歩くこともありますが、入社時は事務職だったそう。新しく設立された風力発電事業に自ら希望して携わり、昨年からは総合職に転向しました。仕事にやりがいを感じている梅津さん。「ひとつのプロジェクトを任せられるような実力をつけたいです」と、さらに回転数を上げて頑張っています。



【組織の概要】

住所/東町一丁目1-8  
従業員数/47人(うち、女性12人)  
電話番号/23-5411  
業務内容/建設資材卸、再生可能エネルギーによる売電事業など



▲風力発電の計器を確認中



▲環境にやさしい社会づくりを推進しています

●人材育成に重点的に取り組む、幅広い分野で専門的な知識、技術、経験を持つ人材が多数在籍しています。  
●社長が酒田市女性活躍推進懇話会の委員を務めており、女性が働きやすい環境づくりを進めています。

◎企業で取り組んでいること



市環境衛生課管理係  
☎31-0933

以前、本紙折り込みチラシの「環境にやさしいごみ出し情報」で、市民1人が排出する1日当たりの家庭ごみが、県内の市の中で一番多いことと、資源物の袋の中に「ふたを付けたままのびん」が出されて困っているとお知らせしましたが、覚えていますか？

あれから1年経ちましたが、まだまだ同じ状況が続いています。特に栄養ドリンクのびんに多いのです。

「びんのふたも金属ださげ、びんさ付けだまま出していなんて」と思う方がいるかも知れませんが、実はびんとふたはちゃんと分けないと、国のリサイクル指定法人（公財）日本容器包装リサイクル協会）に引き取ってもらえません。

「んだば、ふたは、びんから外して資源物の袋で出すんが？」

いいえ、本市の資源物が集められ、選別されるリサイクルセンターの機械では、びん・アルミ缶・スチール缶を選別できませんが、小さなふたは選別できずに埋立ごみとなってしまふのです。びんのふたは金属ですが、必ずもやすごみで出してください。「もやすごみさ出せば、燃えねで焼却灰と一緒に埋め立てられんなでねが？」

ご心配なく。焼却炉には、灰の中に含まれるアルミや鉄などを分別する機械が付いていますので、しっかり分別し、リサイクルできるのです。大きさが直径5センチ程度までのふたは、もやすごみで出して下さい。

「今日も疲れた〜」腰に手を当ててドリンク剤を飲んだら、はい一言。「ドリンク剤飲んだらふたはもやすごみ」